

株主通信

平成26年度(第96期)
第2四半期連結累計期間
(平成26年4月1日から9月30日まで)

◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ
証券コード:8036

Contents

- P 1 あなたのそばの日立ハイテク
- P 3 トップインタビュー
「グローバルトップの実現に向けて」
- P 5 特集 日立ハイテク最前線
- P 7 連結財務ハイライト
- P 8 事業概況
- P 9 会社概要/株式の状況/株主メモ
- P10 クーラーズ通信

あなたのそばの日立ハイテク

医用分析装置

生化学自動分析装置は、病気の診断や生活習慣病、健康状態のチェックのために使われます。日立ハイテクの装置は、日本国内のみならず、全世界で活躍しており、人びとの健康で豊かな暮らしに貢献しています。



生化学自動分析装置

バイオ関連機器

DNAシーケンサは、DNAの塩基配列を解析する装置です。日立ハイテクはDNAシーケンサのパイオニアとして、ヒトゲノム解析にあたって主要な役割を果たしました。さらに、科学捜査などのDNA型鑑定や遺伝子診断などでも用いられています。



DNAシーケンサ
Copyright © 2014 Thermo Fisher Scientific Inc.
Used under permission.

テレビ会議システム

複数の遠隔地をネットワークで結び、鮮明な画像でリアルタイムなコミュニケーションを実現するテレビ会議システムは、オフィスや学校などで会議や授業に活用され、コミュニケーションの活性化や、業務効率の向上に役立っています。



テレビ会議システム

鉄道検測装置

鉄道の軌道や架線の状態を非接触で計測する鉄道検測装置は、新幹線など鉄道輸送における安全性、信頼性と乗り心地の確保に貢献しています。



牽引式軌道検測車両

自動車関連

自動車や輸送機器用の各種センサなどの部品や、カーナビゲーション用ハードディスク、自動車部品組立装置まで、幅広い

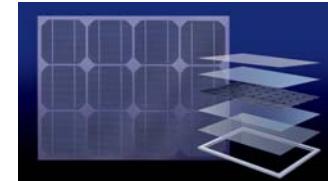
製品を取り扱っています。

自動車用圧力センサ



環境・新エネルギー

現在注目を浴びている太陽光発電事業へ取り組むとともに、太陽電池用部材、風力発電システム、スマートグリッド関連システム、発変電所用電力関連設備などのシステム製品を取り扱っています。



太陽電池用部材

科学機器

カドミウム検査装置は、食品の生産・加工・流通現場で用いられ、簡単・迅速にお米のカドミウム濃度の検査が可能な分析装置です。日立ハイテクグループは多様な分析装置の開発で、「食の安心と安全」へ貢献します。



カドミウム検査装置

半導体製造装置

半導体製造装置は、スマートフォンやタブレット端末、自動車用電子機器に搭載されている半導体の製造に不可欠な製品です。日常生活になくてはならない半導体の製造プロセスの最先端技術開発に取り組んでいます。



測長SEM

電子顕微鏡

オフィスや研究機関などで、卓上に置いて使えるコンパクトな電子顕微鏡の登場により、手軽に鮮明かつ高画質な観察が可能になりました。また国内外の科学館・学校などで教育にも使われ、子どもたちの「理科教育支援」でも活躍しています。



卓上顕微鏡

「グローバルトップの実現に向けて」



執行役社長
久田 真佐男

Q1 平成26年度第2四半期連結累計期間の業績と、通期の見通しについてお聞かせください。

A1 当第2四半期は前年同期に比べて增收増益、四半期純利益は過去最高益となりました。

平成26年度第2四半期連結累計期間における業績は、半導体製造装置、医用分析装置など、主力製品が前年同期に比較して好調に推移し、売上高は前年同期と比較(以下同)して8%増の3,135億円、営業利益は253%増の223億円、経常利益は225%増の216億円、四半期純利益は321%増の151億円と、增收増益となりました。四半期純利益は、平成19年度以来7年ぶりに、第2四半期連結累計期間としては過去最高益を更新することができました。

なお、中間配当につきましては、株主の皆様に対する適正な利益還元を行うという基本方針の

もと、当第2四半期連結累計期間の業績を勘案し、当初の配当予想から5円増配の20円00銭といたしました。

平成26年度通期は、引き続きグローバル事業の拡大や市場変化に対応した事業運営を行い、業績予想である売上高6,500億円、営業利益385億円、経常利益377億円、当期純利益256億円の達成につとめてまいります。

※ 平成26年度第2四半期連結累計期間の業績概要、各セグメントの状況につきましては、P7「連結財務ハイライト」、P8「事業概況」をご参照ください。

Q2 長期経営戦略CS11の実現に向けて取り組みを教えてください。

A2 新たに重点事業領域を設定し、経営資源の重点配分を行います。

日立ハイテクグループ創立10周年にあたる平成23年に、企業ビジョンである「ハイテク・ソリューション事業におけるグローバルトップを目指す」を実現するため、次の10年に向けた長期経営戦略CS11(コーポレート・ストラテジー2011)を策定しました。「最先端・最前線の事業創造企業としてお客様と共に先頭を走る」というキーワードのもと、

社員一丸となって戦略の具現化に取り組んでいます。このCS11の実現を加速させるため、「バイオ・ヘルスケア」「社会・産業インフラ」「先端産業システム」を3重点事業領域と位置付け、経営資源を重点的に配分していきます。また、新事業創生活動、積極的な事業投資、ソリューションサービス事業の強化などの成長戦略を推進しています。

各事業領域の具体的な施策としては、バイオ・ヘルスケアにおいては既存の体外診断装置事業やDNAシーケンサ(解析装置)の強化に加えて、血液凝固・細菌・遺伝子検査装置などの新規事業に重点的に投資するとともに、社会・産業インフラにおいては当社グループのコア・コンピタンスである商事機能とメーカー機能を基盤として、科学



システム事業、商事事業、社会インフラ事業の製品・サービスの領域拡大につとめます。さらに、先端産業システムでは半導体製造装置など、当社グループの強みがある最先端・成長領域に特化していきます。

Q3 ステークホルダーや、社会との関わりについてどのようにお考えでしょうか。

A3 ハイテク・ソリューションを通じて、社会の進歩発展に貢献します。

当社グループと社会との接点は、人びとの暮らしの「最先端・最前線」にあります。この先端領域において、当社グループの強みである「商社+メーカーのシナジー」に、「日立グループの総合力」をかけあわせた「事業創造力」を活かし、世の中の課題解決を積み重ね、社会の進歩発展に貢献したいと考えています。

一例として、平成17年以来、当社製品である「卓上顕微鏡」を教育現場に持ち込んで子どもたちに使ってもらい、科学の素晴らしさを体験・実感してもらう「理科教育の振興支援」を展開しています。これまで、日本のみならずアメリカなど全世界

で延べ50,000人の子どもたちが、「ミクロの世界」を体験しており、この活動の輪は、当社グループにとどまらずお客様や大学・博物館などへも広がり続けています。

私は、これからも「事業活動を通じた社会貢献」を推進し、信頼される「真のCSR企業」となるために、株主の皆様をはじめ、お客様、調達先・仕入先様、地域社会など当社グループをとりまく全てのステークホルダーの皆様とのつながりを一層深化させることが重要と考えています。株主の皆様におかれましては、今後とも、ご指導をいただきたく、よろしくお願ひいたします。

※ P1,2「あなたのそばの日立ハイテク」で、意外と暮らしのすぐそばにある、日立ハイテクグループの製品・サービスをご紹介しています。





「速さ」を兼ね備えた安心・安全



臨床検査を支える日立ハイテクの技術



平成24年9月、厚生労働省から発表された「平成23年 受療行動調査の概況」によれば、医療機関の外来患者の4人に1人が、受付から診察までの間、待たされることに不満を抱いているということがわかりました。医療機関が外来患者を待たせてしまう原因のひとつに臨床検査の結果待ちが挙げられます。臨床検査は、疾病の診

断、治療法の決定、経過の観察などを判断する重要な検査であり、臨床検査の現場では、医師の診療に役立つ検査情報提供を一刻も早く行うための迅速検査が求められているのです。

この迅速検査の実現のために、医療機関が導入を進めているのが、日立ハイテクの自動分析装置「LABOSPECT 008」です。

自動分析装置「LABOSPECT 008」とは

生化学自動分析装置は、医療機関や検査センターにおいて、血液や尿を検体として病気の早期発見や診断、治療の効果の推定のために用いられる装置です。身近なところでは、健康診断で、中性脂肪、コレステロール、尿酸などの測定に使われています。日立ハイテクの「LABOSPECT 008」は、複数の検体や項目を一度に高速で検査する処理能力をもっています。微量の検体でも検査可能であり、また試薬など消耗品の充填やメンテナンスなどの効率化にも役立っています。

スピード、技術、信頼のブランド

高速でパワフルな「LABOSPECT 008」

ロボット技術を応用し、1時間2,000テスト(1モジュール当たり)の分析*が可能となる高速試薬注入システムを搭載し、世界最高レベルの高速分析を実現。分析の効率化とともに、ツイン試薬ディスクシステム、新形試薬ボトルなど、特長的な新技術により、分析信頼性の向上、検査データの質的向上に貢献します。

*比色分析時



「LABOSPECT 008」を導入いただいたお客様からの声

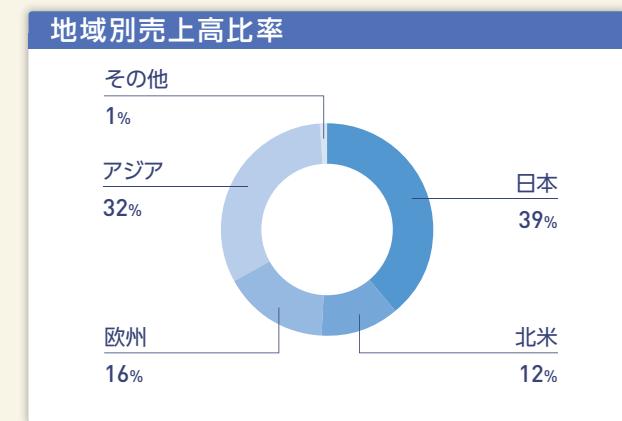
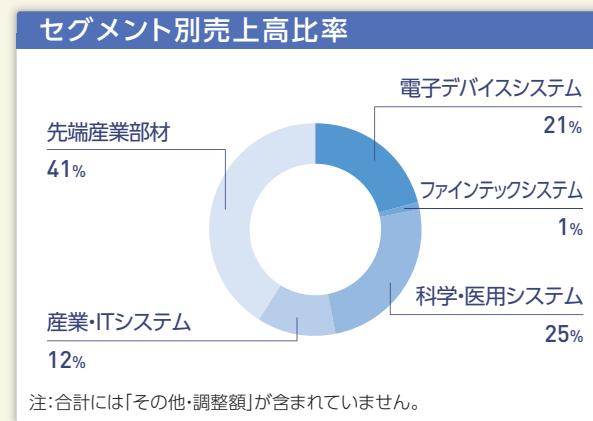
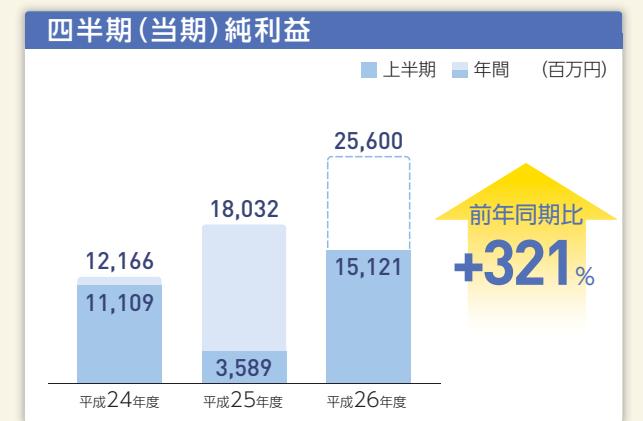
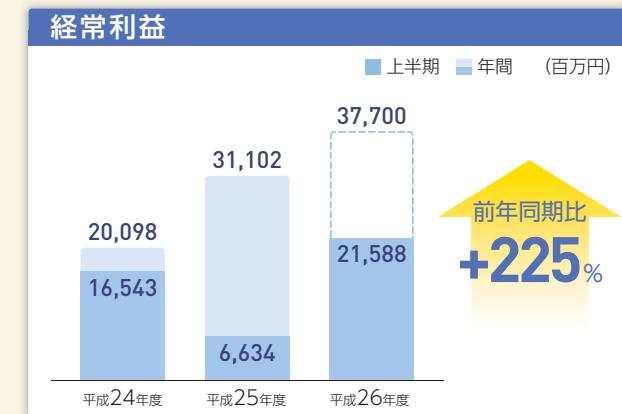
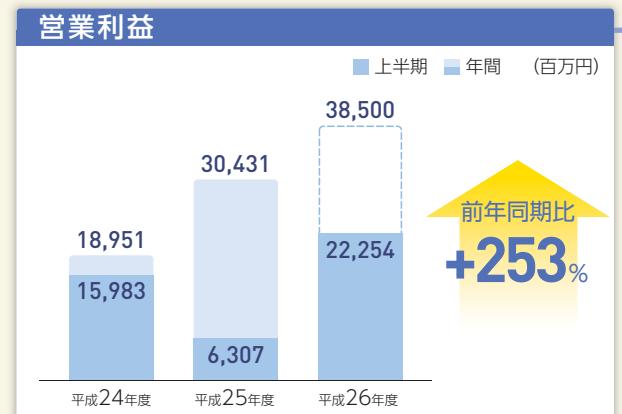
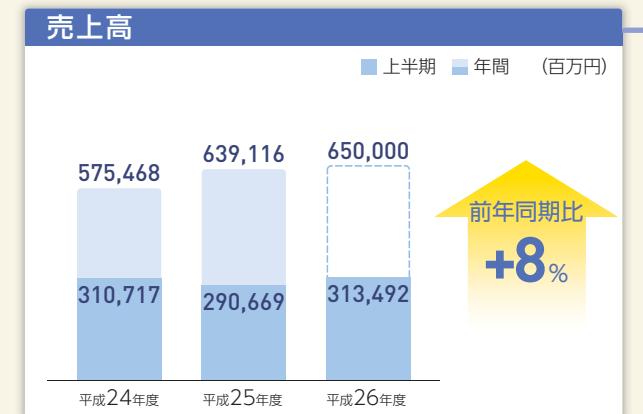


「検査の準備工程が簡略化されたことで、検査を効率的に実施できるようになった」

「検査が集中する時間帯に生じていた、検体の渋滞が解消された」



日立ハイテクは、主力である血液分析の分野で、生化学や免疫検査に加え、現在、細菌、血液凝固、遺伝子検査においても技術開発を進めています。今後も、バイオ・ヘルスケア事業を通じて、人びとの安心で安全な生活に貢献していきます。



*売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益の平成26年度年間の数値は、業績予想値を表示しています。また、前年同期比は第2四半期連結累計期間を比較しています。

*セグメント別売上高比率、地域別売上高比率の数値は、第2四半期連結累計期間の実績値を表示しています。

決算の ポイント

POINT

電子デバイスシステム部門において、大手半導体メーカー向けに半導体製造装置が好調に推移したことや、科学・医用システムにおいて、新興国市場向けおよび米国市場向けに販売が拡大したことにより、前年同期と比べ増収となりました。

売上高

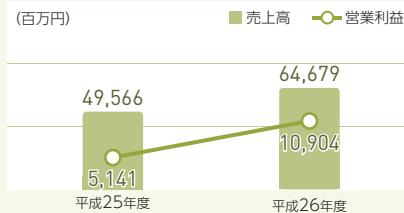
営業利益

POINT

電子デバイスシステム部門および科学・医用システム部門の売上高が増加したことや、事業構造改革の効果が出たことにより、前年同期と比べ大幅な増益となりました。

*第2四半期連結累計期間の実績値を表示しています。

売上高／営業損益



売上高

647 億円

前年
同期比
+30%

営業利益

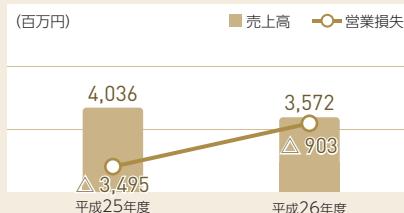
109 億円

前年
同期比
+112%

決算のポイント

プロセス製造装置は、大手主要顧客向けに好調であったため大幅に増加しました。評価装置は、測長SEMが量産投資の後倒しの影響を受けましたが、外観検査装置の販売台数が伸び増加しました。後工程・実装装置は、ダイポンダがスマートフォンを中心としたモバイル関連機器向けの設備投資が好調に推移し増加しました。

電子デバイスシステム



売上高

36 億円

前年
同期比
△11%

営業損失

9 億円

前年
同期比
+26 億円

環境・エレクトロニクスは、産業インフラ関連が一部立ち上がってしたことにより微増となりましたが、ハードディスク関連製造装置は、スマートフォンやタブレット端末等のモバイル関連機器の市場伸長によりパソコン需要が低迷し減少しました。社会インフラ検査は、鉄道関連検測装置が微増となりました。

ファインテックシステム



売上高

801 億円

前年
同期比
+21%

営業利益

124 億円

前年
同期比
+111%

科学システム(電子顕微鏡・科学機器)は、国内市場の需要は消費税率引き上げによる影響で設備投資が遅延傾向であるものの、中国市場では需要が回復傾向となり増加となりました。バイオ・メディカルは、医用分析装置が欧州市場の回復ペースが鈍いで、新興国市場向け販売が好調に推移したことと、米国市場において大規模顧客向けに生化学・免疫分析装置と検体前処理システムのパッケージ販売等が拡大したことにより大幅に増加しました。

科学・医用システム



売上高

386 億円

前年
同期比
△10%

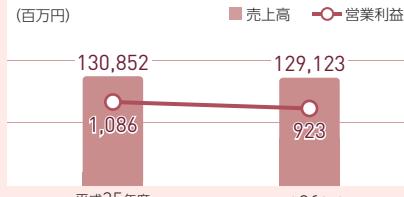
営業損失

3 億円

前年
同期比
+1 億円

産業ソリューションは、顧客の積極的な設備投資を背景に自動車部品自動組立システムが増加し、また再生可能エネルギーへの支援を背景に国内を中心に堅調に推移している太陽光発電関連部材が販売を伸ばしたことから増加しました。ICTソリューションは、通信用機器が従来型携帯電話の新モデル立ち上げ遅れにより大幅に減少し、また車載用ハードディスクドライブが微減となったことから減少しました。

産業・ITシステム



売上高

1,291 億円

前年
同期比
△1%

営業利益

9 億円

前年
同期比
△15%

自動車・輸送機器関連部材は、米国と中国市場を中心に引き続き堅調に推移しました。エレクトロニクス関連部材は、スマートフォン関連の強化ガラス等の部材が中国向けに伸長したものの、その他電池等の部材が低調に推移しました。

先端産業部材

会社概要(平成26年9月30日現在)

■商号 株式会社日立ハイテクノロジーズ
 ■本社所在地 東京都港区西新橋一丁目24番14号
 ■設立年月日 昭和22年4月12日
 ■資本金 7,938,480,525円
 ■従業員 連結 10,387名
 単独 3,819名

株式の状況(平成26年9月30日現在)

■発行可能株式総数 350,000,000株
 ■発行済株式総数 137,738,730株
 ■株主数 7,413名

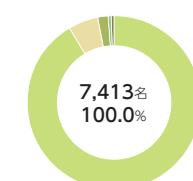
株式分布状況

所有者別株式分布状況(持株数)



所有者	持株数(株)	割合(%)
国内法人・その他	72,793,040	52.8%
外国人	38,838,948	28.2%
金融機関	16,472,500	12.0%
個人	8,267,223	6.0%
証券会社	1,367,019	1.0%

所有者別株式分布状況(株主数)



所有者	株主数(名)	割合(%)
個人	6,784	91.5%
外国人	407	5.5%
国内法人・その他	143	1.9%
金融機関	44	0.6%
証券会社	35	0.5%

1株当たり配当金



(注) 平成26年度年間の数値は、配当予想値を表示しています。

■役員取締役 取締役会長 森 和廣 執行役専務 御手洗 尚樹
 社外取締役 久田 真佐男 執行役専務 宮崎 正啓
 取締役 久田 真佐男 執行役常務 西田 守宏
 取締役 大樂 義一 執行役常務 宇野 俊一
 社外取締役 早川 英世 執行役常務 木村 勝高
 社外取締役 戸田 博道 執行役常務 長尾 英則
 社外取締役 中村 豊明 執行役 池田 俊幸
 執行役 代表執行役 久田 真佐男 執行役 中島 隆一
 執行役社長 久田 真佐男 執行役 橋本 純一
 執行役専務 松坂 尚 執行役 大本 博秀
 代表執行役 梶本 敏夫 執行役 田嶋 浩
 執行役専務 梶本 敏夫 執行役 本田 穂慈

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定期株主総会 毎年6月
- 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
- 剩余金の配当の受領株主確定日 毎年3月末日および9月末日
- 株主名簿管理人 東京証券代行株式会社
- 同上事務取扱場所 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル4階)
- 郵便物送付先・連絡先 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター
- お問合せ先 0120-49-7009
- 株主名簿管理人の事務取次所 三井住友信託銀行株式会社 全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・istationを除く)
- 住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先について お取引口座のある証券会社等にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
- 未支払配当金のお支払について 株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
- 「配当金計算書」について 配当金を銀行等口座振込(株式数比例配分方式を除きます。)または配当金領収証にてお受取りの場合、お支払の際ご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。なお、株式数比例配分方式をご選択されている株主様におかれましては、お取引口座のある証券会社等にご確認ください。



日立ハイテクノロジーズ 女子バスケットボール部 クーガーズを応援しよう!

皆様の熱いご声援をお願いいたします

日立ハイテクノロジーズ 女子バスケットボール部「クーガーズ」は、今シーズン、新ヘッドコーチ、新キャプテンの新体制でWリーグのレギュラーシーズンにのぞみます。目標は“ベスト4”。チームスローガンである「Never Give Up(決してあきらめない)」のもと、チーム一丸となって最終戦まで全力で戦いますので、皆様のご声援をよろしくお願いします。なお、試合の詳細スケジュールは「日立ハイテク クーガーズ 公式ウェブサイト」をご覧ください。

日立ハイテク クーガーズ公式ウェブサイト

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ad/sponsor/cougars/>



有山 景子 キャプテン GF(ガードフォワード)



今シーズンは今まで練習してきたことを発揮して、クーガーズのスタイルで多くの勝利をあげたいと思います。皆様の応援を力に変えて、最後の1分、1秒まで諦めずにボールを追い続けます。クーガーズの活躍にご期待ください。

Wリーグは10月31日に開幕、全30試合を戦います!

◇ 12月-1月の試合日程 ◇

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 第9戦 12/6 (土) vs 新潟 | (大阪府堺市) |
| 第10戦 12/7 (日) vs 三菱電機 | (兵庫県姫路市) |
| 第11戦 12/13(土) vs 富士通 | (茨城県ひたちなか市) |
| 第12戦 12/14(日) vs 富士通 | (茨城県水戸市) |
| 第13戦 12/20(土) vs トヨタ | (愛知県名古屋市) |
| 第14戦 12/21(日) vs トヨタ | (愛知県名古屋市) |
| 第15戦 1/17 (土) vs JX-ENEOS | (長野県佐久市) |
| 第16戦 1/18 (日) vs JX-ENEOS | (長野県佐久市) |
| 第17戦 1/24 (土) vs 新潟 | (新潟県長岡市) |
| 第18戦 1/25 (日) vs 新潟 | (新潟県長岡市) |
| 第19戦 1/31 (土) vs 三菱電機 | (愛知県名古屋市) |

マスコットキャラクター登場!!

クーガーズ・マスコットキャラクター

名前: クウ



コンセプト

- ◆ サポーターリーダーでクーガー(ピューマ)の女性版をイメージ。
- ◆ いざという時はわたしがコートに立つ、活発で勝気な性格！
- ◆ 野生の感覚を持ち、ワイルドな風貌はコート脇を駆け巡る狩人のよう。
- ◆ エールは躍動感に溢れ、攻めの気持ちが乗った応援。



さらに情報が充実！ ウェブサイトリニューアルのお知らせ

このたび、日立ハイテクウェブサイトをリニューアルしました。日常生活の中で日立ハイテクグループ製品がどう使われているかをご紹介する「ハイテクタウン」、拠点をご紹介する「ハイテクてくてく」、半導体のできるプロセスを解説する「半導体の部屋」など、日立ハイテクをよりご理解いただくためのコンテンツを充実させるとともに、日立ハイテクグループの取り扱い製品を幅広くサイト上でご覧いただけるようになりました。「株主・投資家向け情報」ページも、さらに情報を追加し、使い勝手を向上させましたので、この機会にぜひご覧ください。

日立ハイテク ウェブサイトトップページ

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/>



ハイテクてくてく

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/channel/tech-tech/>



株主・投資家向け情報

<http://www.hitachi-hightech.com/jp/about/ir/>



メールマガジンの配信をご希望の方は、こちらからお申込みいただけます。



◎ 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号

Tel : (03) 3504-7111

URL : <http://www.hitachi-hightech.com/jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。